フジテレビ

四大陸フィギュア3夜連続G帯放送！

新世紀フィギュア世界へ！

全日本フィギュアの感動から二ヶ月

17歳のニューヒーロー 宇野昌磨

シニア国際大会デビュー

ジュニアGPファイナル王者の宇野昌磨が、いよいよシニアの国際大会にデビューする。昨年の全日本選手権でSP、フリーともに3位で総合2位になり、初出場となる四大陸選手権の代表切符を手に入れた。

「初めてシニアの大きな国際大会に出ることになるので、そこでの経験を次に繋げられるような演技をしたい」

ジャンプ、スピン、ステップの技術レベルが高く、表現する力も兼ね備わっている17歳の総合力は、すでにシニア顔負けのレベルに到達していると言っても過言ではない。特に、今季に入って習得して試合を重ねるごとに習熟度が増してきたトリプルアクセル（3回転半ジャンプ）と4回転トーループの2つの大技ジャンプは、大きな得点源になっている。昨年12月のジュニアGPファイナルでは、フリーで163・06点をマークして合計で238・27点を叩き出すなど、ジュニアの世界歴代最高得点を更新してみせた。これは、シニア勢に肉薄できる得点だ。

一番成長したと実感できたのがこの１年だった。

昨季まではトリプルアクセルも4回転もまったく跳べなかったが、平昌五輪に向けたスタートとなる今シーズンオフの4カ月間で大技を身につけた逸材は、さらっと気取りもなくジャンプの練習に取り組んだ日々をこう振り返った。

「跳べないときからずっといろんな人に教えてもらい、他の人のジャンプを見たりしてきました。特別なきっかけはなく、これまで練習してきたことが大技ジャンプの習得に繋がったと思います」

「夢の舞台で一度は出たい」というオリンピックだが、いまは目の前の試合に一つひとつ向き合うことを大事にしているという。テレビもマンガも見ず、音楽も聞かないなど、フィギュアスケートに没頭する毎日を送っている。

「いままでの中で一番成長したと実感できたのがこの1年だった。今後は新しい4回転の種類も増やして、シニア選手に後れを取らないようなスケーティングや表現を身につけていきたいと思っています」

加速度的に成長を遂げている宇野が、初の大舞台へ

加速度的に成長を遂げている宇野が、初の大舞台となる四大陸選手権で世界の有力シニア勢に対してどんな演技で勝負に挑むのか、期待が高まる。

フジテレビ系列３夜連続独占放送

13日(金)19時00分～21時54分 男子ショート・女子ショート
14日(土)19時40分～21時44分 男子フリー
15日(日)19時00分～20時54分 女子フリー

▼番組公式ホームページ
http://www.fujitv.co.jp/sports/skate/four-continents/index.html

出場日本人選手

▼男子（名前・所属・年齢）
宇野昌磨（中京大付属中京高校）⑰
無良崇人（ＨＩＲＯＴＡ）㉓
村上大介（陽進堂）㉔

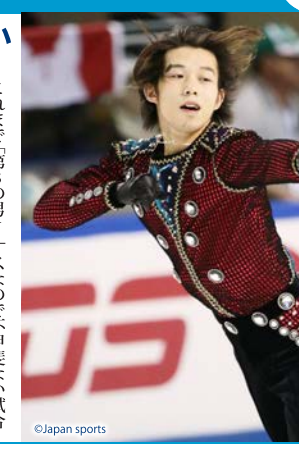
▼女子（名前・所属・年齢）
宮原知子（関西大中・高スケート部）⑯
本郷理華（愛知みずほ大瑞穂高校）⑱
永井優香（駒場学園高校）⑯

活躍する新世代、主役は誰の手に？

新世代開戦

２０１５年四大陸選手権は2月12日に韓国・ソウルの木洞（モクトン）アリーナで欧州を除くアジア、アメリカなど4大陸の各国選手が集結して開幕する。韓国での開催は10年全州大会以来5年ぶり。昨年の全日本選手権で男女ともニュースターが誕生し、新たなニッポンフィギュア時代の幕開けとなった。男子ではジュニアグランプリ王者の宇野昌磨が、女子では16歳の全日本女王、宮原知子が、いよいよ世界へ向けて羽ばたく時期が来た。勝負はここ四大陸から始まる。

第3の男返上！大会二連覇にかける想い



無良崇人

これまで「第3の男」に甘んじ、ソチ五輪代表の座を逃した無良崇人が２０１８年平昌五輪に向けた最初のシーズンと捉える今季、並々ならぬ意気込みで臨んでいる。昨年12月の全日本選手権では、武器の4回転が不発で総合5位に沈んだ。メダル圏外で代表入りは厳しいかと思われたが、四大陸選手権と世界選手権（町田樹の引退を受けて繰り上がり出場）の両代表に選出された。

「町田選手は小さい頃からいいライバルでその存在は大きかった。彼からもらったチャンスなので不甲斐ない試合はしないようにしたい」

急遽な世代交代の日本男子は10代の若手が台頭してきた。2月の四大陸選手権開幕直前に24歳を迎える無良にとっては、今後を占う正念場となるシーズンになるだけに、四大陸選手権では2連覇を勝ち取りたい。「カナダで出した自己ベストを出すのが今季の最終目標」。家族もでき、新たな所属先もできた「男の中の男」が本領をどこまで発揮できるか、楽しみだ。

正念場のシーズン

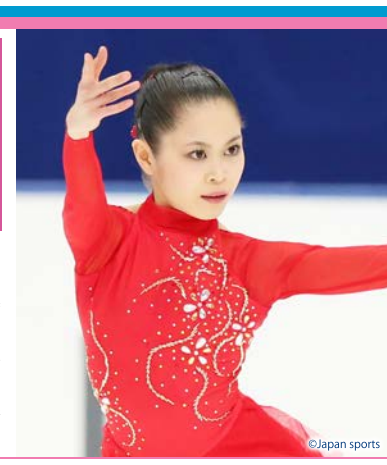
村上大介

NHK杯優勝の雄

同世代の活躍、「悔しさ」バネに初四大陸

これまでは才能を持て余し、鳴かず飛ばずの村上大介が今季、本人も驚きの飛躍を見せている。GP大会で唯一出場できたNHK杯で思いがけない優勝を成し遂げたからだ。SP3位からフリーで完璧な演技を見せて1位となり、文句なしのGP初制覇にうれし泣きだった。五輪金メダリストを育てたことがある名伯楽のフランク・キャロルコーチに指導を受けて、自分の演技に自信を持てるようになったことが大きい。代表切符が懸かった全日本選手権は気負いすぎて得意のジャンプでミスを連発して7位。それでも、NHK杯優勝の活躍が評価されて、シニアでは初めての国際大会となる四大陸選手権の代表になった。同世代のライバルたちの活躍を見て「悔しさがあった」と吐露した24歳。ついに眠れる獅子が本格覚醒するかもしれない。ポスト高橋大輔との呼び声もあっただけにジャンプがはまれば、優勝争いに加わってくるはずだ。

宮原知子



全日本新女王として

全日本チャンピオンになって自分に自信がついたのかなと思う。

昨季シニアデビューした宮原知子が着実に成長を遂げ、今季ついに全日本女王になった。昨年12月の全日本選手権でSP2位からの逆転優勝。16歳の新女王は、3回転ルッツ＋3回転トーループの高難度ジャンプと強靭なスタミナを武器に躍動した。「全日本チャンピオンになって自分に自信がついたのかなと思う。しっかり自信を持って気を引き締めて、とにかく一番は完璧な演技をして表彰台を目指したい」。今季はシーズン前半のGP2大会でいずれも3位に入り、連続で表彰台に上った。昨季の四大陸は初出場で銀メダル。調子がいい今季は大会初制覇を狙える絶好のチャンスだけに、静かに闘志を燃やしているはずだ。3月の世界選手権の前哨戦に勝利して弾みをつけたい。

群雄割拠！女子新世代

本郷理華

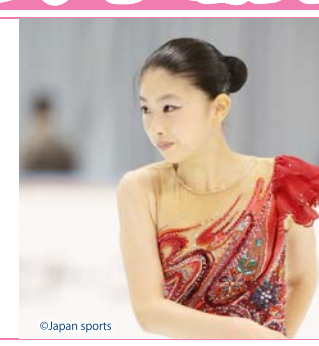
遅咲きのシンデレラ

目標180点以上、自分の演技で存在をアピールしたい

シニアデビューシーズンの今季、目覚ましい活躍を見せている本郷理華が、「遅咲きのシンデレラ」として注目されている。GP初参戦ながら2戦目のロシア杯で初優勝。グランプリファイナルにも繰り上がりで初出場を果たした。世界の舞台を踏むことで、そのレベルの高さを目の当たりに出来たことは大きかった。それと同時に、名前を売り込む機会にも恵まれて、貴重な経験がシニア1年目からできた運もある。昨年の全日本選手権ではSPで首位に立ち、フリーでは得点を伸ばせなかったものの総合2位に入った。

初出場となる四大陸選手権と世界選手権では「納得の行く演技で合計180点以上を目指す。自分の演技で存在をアピールしたい」と意気込む。強豪ロシア勢がいない四大陸ではノーミスの演技ができればメダル獲得のチャンスは十分にある。

永井優香



才色兼備の16歳

代表として恥じないような演技をしたい

ジュニアGP大会で今季2戦とも表彰台に立つ2位に入った永井優香。161センチでスタイルも良く、清楚な雰囲気を持つ才色兼備の16歳が、躍進のシーズンを過ごしている。初出場となったジュニアGPファイナルでは、SPで3位につけてメダル獲得の期待があったが、フリー1でのジャンプミスが響いて総合5位の結果だった。初出場だった昨年の全日本選手権では総合4位と大健闘。今季の活躍が認められ、初めてとなる四大陸選手権と世界ジュニア選手権の代表に選ばれた。「代表として恥じないようなちゃんとした演技をしたい」。